

- Fukao, Y., and M. Furumoto (1975): Mechanism of large earthquakes along the eastern margin of the Japan Sea. *Tectonophysics*, **25**, 247-266.
- 菊地正幸(1995): 5月27日サハリン地震のメカニズム解析(暫定版). YCU地震学レポート, **41**, May 29.
- Kimura, G., Miyashita, S., and S. Miyasaka (1983): Collision tectonics in Hokkaido and Sakhalin. *Accretion Tectonics in the Circum-Pacific Regions*, ed. by M. Hashimoto and S. Uyeda, 123-134.
- 瀬野徹三(1992): スラブが決める弧の応力. 月刊地球, **14**, 332-334.
- Seno, T., T. Sakurai, and S. Stein (1995): Can the Okhotsk plate be discriminated from the North American plate?. *J. Geophys. Res.* (submitted).
- Wei D. and T. Seno (1995): Determination of the Amurian plate motions. *Geodynam. Series*, in preparation.
- Wei, D. and T. Seno (1995): Determination of the Amurian plate motions. *Geodynam. Series*, in preparation.
- 瀬野徹三(1995): 中部—西南日本の応力場—なぜ東西圧縮なのか?—, 地震, 準備中.
- Yamanaka, Y. (1993): A unified model of the stress state in subducting slab, Ph. D. Thesis, Univ. of Tokyo.

---

SENO Tetsuzo (1995): The northern Sakhalin earthquake of May 27, 1995—from tectonic viewpoint—.

---

<受付: 1995年6月13日>

## 兵庫県南部地震に対する日本学術会議の対応

兵庫県南部地震については、これまでに極めて多様な報道や報告がされている。日本に限らず、世界中の新聞・TVが大々的に取り上げ、通常のニュースや紙面だけでなく速報や特集を組み、中には震災に関係するニュースをまとめた縮刷版を出している社もある。新聞・TVは言うに及ばず、内外の週刊誌が特集を組み、あるいは緊急増刊の類を発行している。

学術的な世界でも反応は速かった。地質調査所を始め、国土地理院・防災科学研究所・気象庁などすぐ調査と解析に乗り出した。文部省は緊急プロジェクトを組んだ。各学会も報告会やシンポジウムの類を次々と開催した。機関誌に特集を掲載したところも少なくなく、巻頭にカラー口絵を出したところも多い。この地質ニュースも2月号に緊急小特集を組んだ。

日本学術会議では、1月30日に開かれた運営審議会で、総合的な検討をしようという機運が起きた。その後3月27日の運営審議会で臨時(特別)委員会を設けることが合意され、4月19日の第121回総会で「阪神・淡路大震災調査特別委員会」の設置が正式に認められた。これは、この大震災が提起した問題を、自然科学分野だけでなく、人文社会科学分野も含めて総合的に検討することを目的とし、第5部(工学)の伊藤学会員が委員長になっている。その後、この委員長がどのような活動をしているか、筆

者はあまりよく知らない。

初めに書いたように、この地震活動に関する報道・報告は無数といっていいほど多い。また報告のもとになっている調査も、おそらく多数にのぼるに違いない。しかし、調査やその結果の公表は全く個々別々に行われ、混乱状態といっていいほどで、通覧したくてもなにかから手をつけたらいいか分からない。今度の地震と災害に関して、人々はどこでどういう調査が行われ、その報告はどこで入手できるか、さらにはどれが科学的な批判に耐える調査結果であるか、よく分からないのが実状である。

そこで、第4部の地質学研究連絡委員会では、このような実状を少しでも改善するのに役立てるため、錯綜する情報をまとめて一覧表を作ることにした。できれば8月一杯には第1次の調査・報告リストを作って公表できるようにしたい。現在手に入るところからデータベースを作りつつあるが、読者諸氏でお気づきのものがあつたら、タイトル・日時・参加者名など下記の委員にご連絡頂ければ幸いである。

〒156 世田谷区櫻上水3-25-40 日本大学文理学部応用地学科小坂和夫(Fax: 03-3303-9899)または〒270-01 流山市東初石3-126-55-403 佐藤正(Fax: 0471-52-6844)。

佐藤 正(地質研連委員長)